

RCNPワークショップ報告書

タイトル： 第29回 凝縮物質理論の国際ワークショップ
日程： 2005年9月13日～17日
開催場所： 京都府木津市 奈良高等研究所
責任者： 土岐博（RCNP）、赤井久純（阪大理学部）
参加者数： 国内25名・国外25名
共催・資金に関する情報(機関および金額)：
理学部21世紀COE(150万円)・APCTP(3千ドル)

研究会ホームページ情報 <http://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/~cmt29/>

内 容

凝縮系物理の理論研究者と原子核物理の理論研究者が集まり、比較的少人数で議論の時間をゆったりとした国際研究会である。通常は凝縮系物理と原子核物理はほとんど共通の場で講演・議論することは無い。しかし、ハミルトニアンこそは多少違っても多体系を数学的に解く方法は類似しているものもある。多体理論を切り口として第一線の理論研究者が集まって議論した。[プログラム](#)をこの報告書につける。

成 果

このシリーズの国際会議を日本で開催したのは初めてである。したがって、日本内ではほとんどの研究者がこの種の会議を知らなかった。そこで、出来るだけ凝縮系の著名な研究者と原子核の著名な研究者を招待して講演していただいた。分野の違う人が多くいるということで、それぞれの講演者は簡単なIntroductionを加えて話をしてもらった。ハミルトニアンとその解き方はよく分かるが、その定性的な説明の話になるとなかなか話についていけないところも随所にあった。しかし、このような種類の会議がもっと頻繁に行われることにより、それぞれの研究内容や方法がほかの分野の研究者に伝わるようにする努力は今後も続けていく必要がある。Proceedingsは来年早々に完成する予定である。原子核物理と凝縮物理という物理学の中で隣の分野でも交流がこれまであまり無かった。お互いが議論する場を設けることが出来、それぞれにお互いを理解しようとしたことは大きな成果であったと思う。